



「自ら拓く技術・家庭科の学習」をめざして

技術・家庭研究委員会 澁谷和子

本年度、第四十七回全日本・関東甲信越中学校技術・家庭科研究大会が長野市を中心とした北信地域で開催され、相森中学校では九分科会の一つ、「生活の自立と衣食住II」について、授業提案及び研究協議が行われました。



長野県テーマ「自ら拓く技術・家庭科の学習」を受けて、私たちが研

に研究を進めてきました。私たちはまず、衣生活の自立において「自ら拓く力」を「衣服を活用し管理する力」と考えました。そして、製作学習を残し

ながらも、より適切に「衣服を活用し管理する力」をつける方向で、研究に取り組むことになりました。キーワードは『作って終わる。』から『作って始まる。活動して始まる。』授業への転換です。さらに次の三つに重点を置き研究を進めてきました。

- ①実生活にかかわれる魅力的な題材の設定として、「ワーキングウェア」の位置づけ。
- ②一人一人が体験し、考え、実践することで、課題解決力を育てる学習として、試作や実験実習を仕組む。
- ③学び合いの場の設定と学びのよさを実感する振り返りの時間の確保として、意図的に発表場面や学習のまとめ方の工夫。

このような研究内容の集大成として、去る十月二十四日には、長野県が大切にしている「生徒の姿での発表」を行うことができました。最後に大会に関わった先生方や生徒のみなさんに感謝いたします。(墨坂中)

第209号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会理事長 佐藤訓行
 編集人 佐藤訓行 須坂新
 印刷所 須坂新聞社

本校の特色ある活動

縦割り班活動

井上小学校

本校では縦割り班といって、全校を二十八班に分け、異学年の男女ができるだけ均等に含まれる班を年度当初に構成します。

この班での活動は多岐にわたります。

一つは「なかよしタイム」といって各班の班長と副班長(五、六年生)が中心に考えた遊びを朝の活動の十五分間、家庭や教室、体育館などで行います。また「なかよしふれあいタイム」といって、年に二回、朝の活動から一時間目にかけての約一時間、遊びを通して交流する時間もあります。

さらに、運動会では「縦割り競技」が位置付いています。本年度はボール運びリレーをして競い合いました。

この班による「縦割り清掃」も行われています。

これらの活動を通して、低学年の児童は上級生と知り合ふれあいの場を広げて、安心して学校生活を送ることができまます。また、いろいろな場所の清掃の仕方も学ぶことができます。一方、高学年に

とっては、低学年が喜んでくれるように、よりよい活動を準備しますから、相手を考えたい思いやりの気持ちが育ちます。また、班をまとめていくという責任感も育ちます。



異学年との交流場面を積極的に設けることで、学年やクラスを超えて友だちになることが可能になります。

職員としても、全校児童の実態を把握し成長を見守るために、大事にしていきたい活動です。小規模校だからこそできるこの縦割り班による活動をこれからも大切にしていきたいと考えています。(島田 花子)

教育会だより

- 7/28 教育会講演会(須坂市旧上高井郡役所)
- 講師 国立歴史民俗博物館 井原今朝男先生
- 演題 歴史のおもしろさ(とこわさ)
- 7/29/8/7 同好会夏期講習会
- 8/20/22 日本連合教育会 東京大会(品川区立小中一貫校日野学園他)
- 9/3 『これからの時代を心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成』
- 9/3 第4回理事会
- 9/4 研究推進委員会③
- 9/5 第5回同好会
- 9/5 第4回代議員会
- 9/18 研究推進委員会④
- 10/3 上高井教育研究会(相森中学校)
- 10/4 第5回理事会
- 10/15 第6回同好会
- 10/18/19 郡市科学作品展(シルキーホール)
- 10/21 第6回同好会
- 10/23/24 技術・家庭科全国大会(相森中)
- 11/10 研究推進委員会⑤
- 11/11 信教全県研究大会(東北信A 長野)
- 11/28 松代小、更北中
- 11/28 信教全県研究大会(東北信B 須坂)
- 11/13 豊洲小、常盤中
- 11/15 『信州教育の日第7回小諸大会(小諸市文化センター)』
- 11/15 『ともに学び、ともに育つ環境づくりをめざして』
- 11/15 第7回同好会
- 11/15 研究推進委員会⑥
- 11/15 郡公開研究会(中心講師 益地憲一先生)
- 11/15 ◎国語研究会(会東中)
- 11/15 ○社会高小算数数学高山中(理科仁礼少)
- 11/15 生活楽(旭ヶ丘小、菟野白菊小)
- 11/15 図工美術高山中(体育保体豊丘小)
- 11/15 英語活動(英語森上小)
- 11/15 道徳特別活動高小(特別支援教育井上小)
- 11/15 健康教育(豊丘小、人権和教仁礼小)
- 11/15 中間会計監査会
- 11/15 第3回研究委員長・研究企画委員会合同会
- 11/15 第5回代議員会
- 11/15 研究推進委員会⑦
- 11/15 上高井教育会会報第209号発行
- 11/15 第8回同好会

学校創立記念事業

VS精神を受け継いで

墨坂中学校

今年度、本校は創立五十周年を迎えました。石川現PTA会長様が実行委員長となり、同窓会、歴代PTA会長、区長会代表者等の皆様によって実行委員会が組織され、航空写真、記念誌、記念式典、祝賀会、記念品等の事業が進められました。

九月二十七日には、本校体育館に須坂市長様をはじめ多数のご来賓の皆様にご臨席いただき、記念式典を盛大に挙行することができました。

この中で、卒業生三名をお迎えし、創立以来伝統として受け

創立五十周年を迎えて

高山中学校

今年度、高山中学校は創立五十周年を迎えました。高井山田両村合併にともない、昭和三十三年に統合の高山中学校が開校され、翌三十四年に現在の位置に校舎の設立をみました。今は立派に整備されている校庭も、当初は地面の凹凸が甚だしく、自衛隊員の協力やPTAでの勤労奉仕、生徒たちによる石拾い等で長期にわたり整地作業が行われてきたと記録されています。

昭和六十年代から平成にか

継がれているVS(ボランティア・サービス)活動を見返すパネルディスカッションが、生徒会の手によって行われました。「自ら行う活動を目指す大切さ」「地域の皆様に支えていただきたい」「社会に出てからも再発見したVS精神」など、先輩から体験に根ざしたお話を聞き、生徒も討論に加わってVS精神を改めて確認しました。

また、オレんじのスクールのラーに染め上げられた記念の手ぬぐいを生徒たちは早速か



ぶつて、伝統の「膝付き四回がけ清掃」を始めました。

先輩が築いてこられた伝統や、地域の皆様が本校にお寄せ下さっている温かな心を身近に感じ取らせていただいたことで、生徒の母校への誇りが一層高められる機会になりました。(小原 照吉)



創立への感謝とこれからへの決意を込めたメッセージをテーマに開催されました。多くの方々とともに感動し合えた二時間半でありました

(山岸 周一)

地域との連携

茅葺き屋根作り

栗ガ丘小学校

子どもたちが体験を通して小布施町の景観について学ぶ「次世代まちづくりワークショップ」が毎年三年生を対象に行われています。東京理科大学の「小布施町まちづくり研究所」主催のもと、四回目を迎えました。今回は、小布施町に数多く現存する茅葺き屋根について体験学習を行いました。小布施では主として葺き材は麦藁が使われ、「ぐず屋根」と呼ばれています。

一日目は、茅葺き屋根を実際に見に行きました。子どもたちは、その中に入ったとたん、「すずしい。」

「草のいいにおいがする。」など口々に話していました。その後、各自で小さな茅葺き屋根を制作してみることにしました。茅葺き屋根をつくる時の大切な技術に「結び」があります。その中の一つ「帯結び」を教えてもらい、わらの束を麻のひもを使って帯結びで結んでいきました。きちんとしぼらないとばらばらになってしまう、大変でした。

二日目は、茅葺き職人松澤敬夫さんを小谷村よりお招きし



て、茅葺き屋根の工程を実演していただきました。子どもたちは、職人さんの技に驚いていました。「とも結び」を教えてもらい、屋根の骨組みの所に、一日目に各自で作ったわら束を結び付け、自分の茅葺き屋根を作り上げました。「見ている時は簡単そうだったけれど、やってみたらすごくむずかしかった。」という感想でした。「茅葺き屋根」約百三十個を並べてみると昔の小布施の風景を思い起こすことができました。(篠原 京子)

子どもたちと共に

高甫小学校

本校では、「自ら学び考える力の育成」を全校研究テーマとして、研究を進めています。特に、本年度は国語科研究部会と学力向上部会(算数科)の二つの部会を設けて取り組んできました。

国語科部会では「読解力」を手がかりとし、子どもたちが理解した事柄に自分の考えを加え、更にそれを豊かに表現することを願って実践を重ねてきました。

学力向上部会では、昨年度の反省を生かし、「自分の考えを持たせ」「主体的に追究させる」ことを重点として取り組んできました。

きました。

これらの研究の成果を実証するのが「研究授業」となるわけですが、それを支えるのは日々の実践の積み重ねであります。

本校でも、「互見授業(一人一公開)」を行い、気軽に授業を参観し合って高め合おうという試みをしております。係内授業とは別に、個々の課題を持って切磋琢磨しようとするものです。感想用紙や記録用紙などから情報を交換したり反省会をしたりしています。

ところで、本校の研究テーマに「自ら」という言葉があります。多くの学校でこの言葉を使

「本校の実践から」

東中学校

東中学校の実践として、音楽科の授業について述べていきます。

音楽科では研究テーマを「表現する喜びが味わえる授業のあり方」互いに認め合い、高め合える学習活動の工夫」として研究を進めてきました。音楽会が終わる、それまでパートで追究してきた表現方法を生かせる題材「自分たちの『ステージ』を歌いあげよう」を設定しました。

授業では、一人一人が曲への思いを持って臨みました。パート別の練習では「もっとこうじ

やないか」と互いに言い合うことでイメージを膨らませながら歌うことができました。次に他パートと合わせたグループ活動では、同じパートの仲間とだけではよくわからなかったことに気付く時間となりました。例えば、バスはソプラノと一緒に例え、バスはソプラノと一緒に合わせることで、「ステージ」と歌う最初の「ス」がずれていることに気付きました。そして、「手拍子を入れるから、四回目のときに歌えばいいよ。」とソプラノからアドバイスを受け、一生懸命に練習する姿が見られました。ソプラノの生徒も「バ



用しているのではないでしょう。自ら動くのは正に「子どもたち」。私たちは常に子どもたちと共に学び合える存在でありたいと願っています。

今日も、より良い子どもたちの姿を目指して実践を重ねる先生方の姿が見られます。「もっと知りたい」という輝きに満ちた子どもたちの瞳に伝えるために、労を惜しまない集団でありたいと思います。

(伊藤 浩)



スの人たちの考えが深まった。」と評価していました。授業の最後に全体で「ステージ」を歌いました。生徒それぞれの確かな学びの姿が見られ、とても感動的なものとなりました。

東中の今後の課題として、「心の解放と表現力の育成」が挙げられます。今回の成果を基に、お互いが自己を存分に表現し合い、認め合い高め合える学校を目指して、様々な場面でその可能性を探っていきたく考えています。

(市村 雅之)

本校の宝 53 常盤中学校

『登龍門』

常盤中学校の生徒昇降口は、『登龍門』という名称がつけられています。本校のシンボルの一つです。おそらく、昇降口に名称がつけられている学校は、そう多くはないと思います。

登龍門の「龍門」は、黄河上流にある龍門山を切り開いてできた急流のことで、龍門を登り切った鯉は、龍になるとの言い伝えがありました。この言い伝えから、中国の後漢書李膺伝(りようでん)では、李膺という実力者がいて、努力して彼に才能を認められれば出世が約束される、ということ「龍門を登る」とたとえ「登龍門」という言葉が生まれたそうです。

きる人づくり」「美を愛する情操豊かな人づくり」の教育を目指された方です。生徒や職員がその目標に向け精進していくことを願って、毎日通る昇降口を『登龍門』とされたそうです。

平成二年、新校舎が竣工しました。白壁で飾られた真新しい昇降口の正面にも、赤堀昭三校長先生の揮毫をもとに彫られた『登龍門』のプレートが埋め込まれました。



本校の昇降口を『登龍門』と呼ぶようになったのは、昭和四十一年の一月、当時の徳永隆寿校長先生が書かれた木額を生徒昇降口に掲げたことが始まりです。徳永校長先生は、「基礎的な知識・技能・態度の徹底」「人格を尊重し合い、社会福祉に貢献で

本校は今年で創立六十二年を迎えましたが、四十年余り経った今でも、登龍門の言葉の厳しい教えを生徒も職員も大切にしながら学校を創っています。

これからも登龍門に込められた精神は、後輩へと引き継がれていくことでしょう。本校の宝として、この精神を大切にしていきたいと思えます。

(勝山 幸則)

火ばら 談義



カット 墨坂中 更級 聡

名人さんに学ぶ技・文化・伝統

上嶋 敬可

日野小学校では、十一月第三土曜・日曜日に開催される『日野地域づくり文化祭』に共催して、「いずみまつり」を実施している。学校開放、学社連携・融合による特色ある学校行事として、しっかりと位置づいてきている。

午前中は、地域の方々でその道の達人・名人さんを講師として招き、「名人講座」が開催される。本年度は十八講

座が開設され、子どもたちは受講したい講座を選択して参加した。普段の授業にも増して、どの子の瞳にも素敵な輝きが見られた。各講座では、名人さんとの交流や親交を深めながら、技や文化・伝統を体験を通して学ぶことができた。

このような活動の中で、地域のすばらしさや人々のあたたかさを肌で実感することを

全校音楽物語

柿澤 美奈子

今年の音楽会のテーマは、「明日にむかって」です。このテーマのもと、全校児童と職員による全校音楽物語を行いました。

今年「スキャンブルシャンクス」ミュージカル・キャッツに出てくる鉄道ねこ(職員)と同じ列車に乗り合わせた全校の子どもたちで物語は進んでいきます。

まず、オープニングは、職員の手で、校長先生の和太鼓。ここから各学年の子ども

たちの歌の発表です。子どもたちの歌の発表は、全校音楽で発表した歌や、各学年で練習した歌で、一・二年生は「大きな古時計」、三・四年生は「レッツゴー! いいことあるさ」、五・六年生は「今日から明日へ」です。最後に「さあ、明日に向かって出発進行!」と全校でかけ声をかけ、音楽会が始まります。練習を繰り返し、全校で心を一つにし、団結して作り上げた



通して、自分のふるさとを大切にしていこうとする心が育まれていくのではないだろうか。見える学力への傾倒や授業時数増が即行事精選へと向かいがちであるが、「生きる力」を考えたとき、本校にとってなくてはならない学校行事のように思われてならない。(日野小)

オープニング。ユーモアにあふれ、観衆を和ませたひと時。音楽会の素晴らしい幕開けになりました。(豊丘小)

「夢に向かう…」

相森中卓球部顧問

小林 里美

「よしやった!」彼女は卓球の北信越大会において個人三位で全国大会の切符を手に入れた。決して、平坦なものではなかった。

一年生だった昨年、個人戦で三年生の姉と共に北信越に臨んだ。姉は全国への切符を手に入れたが、彼女は力及ばず全国出場に一步届かなかった。口に出しては言わないが、心の中で悔しい思いはあつただろう。同じ思いはしたくないと今年度の初め、個人で全国へ行くことを目標を立て、一試合一試合を大切に、最後まで諦めず粘り強く闘ってきた。

八月二十三日に福井県敦賀市で開催された第三十九回全国中学校卓球大会。一回戦は北海道代表との対戦だった。二対二で迎えた最終セットは接戦だった。どちらも一歩も譲らない。結果、勝利を手にした。最終セットであせり、プレッシャーもある中、自分の卓球を貫いた精神力の強さ、その思いに私は感動した。その精神力の源とは。彼女は、遠征等どんなに卓球が忙しくても必ず課題を提出すると決めている。そして、決めたことは必ず実行している。この積み重ねが、彼女の精神力につながっているのだらう。一回戦は、惜しくも敗れたが、精一杯戦い続けた彼女の笑顔は、さわやかに満ちていた。今年度から中学校勤務になった私は、練習・大会等に臨む生徒の姿からたくさん学んだ。



(相森中)

編集後記

平成二十年も残りわずかなりなりました。新学習指導要領移行措置を来年度に控え、それぞれの学校で準備に忙しいことと思います。

二〇九号をお届けします。本号も原稿をメールにより送付していただき、編集作業が迅速化されました。お忙しい中、玉稿を寄せていただいた皆様、心より感謝申し上げます。

よいお年をお迎えください。(中村)